

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 高速道路推進課長 舟津修亮 電話番号 0852-22-6271

事務事業の名称	高速道路利用促進事務		
目的	(1) 対象	高速道路利用者	
	(2) 意図	利用促進策を実施し、すでに供用された高速道路の利用台数の増加と交流による沿線地域の活性化を図るとともに県内未開通区間の整備促進を図る。	
事業概要	高速道路の利用促進のための情報収集や方策検討の充実を図るため島根県東部及び西部の高速道路利用促進協議会に対し、運営費の一部を負担し、連携した活動を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	高速道路の利用台数(山陰自動車道で代表させる)	目標値	10,500.0	10,500.0	10,500.0	10,500.0	台/日
	式・定義	実績値/目標値	実績値	12,000.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名	高速道路の利用台数(浜田自動車道で代表させる)	目標値	4,000.0	4,000.0	4,000.0	4,000.0	
	式・定義	実績値/目標値	実績値	3,980.0				
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	2,370	3,400
うち一般財源(千円)	2,370	3,400

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	(未選択)
---------------------	-------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- 山陰自動車道の交通量は12,000台/日となった。
- 浜田自動車道の交通量は3,980台/日にとどまった。
- 平成26年度で中国横断広島浜田自動車道利用促進協議会が解散し、平成27年度にあらたに西部高速道路利用促進協議会が設立された。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- 高速道路活用マップ作成、ふるさとフェアにおけるPR等により東部の高速道路利用台数の目標達成。
- 県西部の高速道路の企画割引の実施(H27.8~11)最大4.0%引き
- NEXCO西日本より企画割引について一定の評価を得、H28年度も継続実施となった。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- 浜田自動車道の交通量については、平成23年度から年々減少の傾向にあり、平成27年度は3,980台/日となった。

②困っている状況が発生している「原因」

- 浜田自動車道の利用者の減少について、ETC割引の縮小により高速料金の実質的な値上げが原因。高速料金の有料・無料の東西不公平感(尾道松江線)を地域では感じている。

③原因を解消するための「課題」

- 県西部の高速道路利用促進について、NEXCO西日本、県、関係部局と一緒に料金割引企画を継続していく必要がある。
- H27に設立した西部高速道路利用促進協議会については、沿線市町の高速道路の整備状況は異なるが、一体となった活動を推進していく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- H27年3月の尾道松江線の全線開通を契機に、山陽・四国地方の新たな利用者獲得のため、国・県・沿線自治体が連携し、効果的なPRを実施する。
- 県西部の高速道路については、NEXCO西日本と地元、県(商工、土木、西部県民C)で連携して料金割引企画を展開する。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)